

市議会9月定例会〈決算特別委員会〉

質問に立ち 市の施策に 要望提言

さいたま市議会9月定例会は9月6日に開会し10月20日に全日程を終え閉会しました。今定例会では決算特別委員として、9月28日から10月13日まで11日間行われた「決算特別委員会」にて質問を行いました。本号はその主な内容を掲載し、ご報告させていただきます。

◆平成28年度決算の概要

平成28年度の当初予算は「さいたま市総合振興計画」「さいたま市成長戦略」「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を着実に実施する予算であるとともに、「しあわせ倍増プラン2013」の総まとめとなる予算編成でした。その結果、歳入総額4,608億6,583万9千円、歳出総額は4,511億8,495万6千円で差引残額96億8,088万3千円、翌年度繰り越し財源を差し引いた実質収支額は23億8,040万2千円となっています。

Q&A 魅力発信事業について 串刺し行政で住みやすいさいたま市を

Q 土橋市議 魅力発信事業について、トータルで約4,300万円使っているが、その意義と目的について伺いたい。

A シティーセールス部副参事 イベントを活用した魅力発信であるとか、魅力の顕在化と都市イメージの向上、それから国内外に向けて魅力発信をした。都市間競争が厳しくなる中、訪問人口や定住人口の増加につながる魅力発信をしなければ、というところが意義だと考える。

Q 土橋市議 本市の都市イメージの向上というのが外部から見た話なのか、住んでいる側から見た話なのかよく分からない。何となく絵が描ききれていないところがあると思う。

日本で一番の都市である東京、その真上に位置しているさいたま市は、それだけでも十分魅力的だと思う。これ以上に何を向上させようとしているのか伺いたい。

A シティーセールス部副参事 目指すところは、「住みやすさ」という魅力を使って、住むところを都市イメージにしていきたいと考えている。

A シティーセールス部長 さいたま市の特徴は東京から鉄道で40分前後で行き来できること。大きな災害に見舞われたことが無く、比較的 안전한土地だということ。そして、都市と田園が織りなす都市環境でもあり、住むところが都市イメージだと思っている。

その中でブランドというものがある。例えば大宮盆栽や岩槻の人形、浦和の鰻、レッズやアルディージャといった財産をブランド化して発信していくことも一つの大きな仕事になると思う。さらには今後、少子高齢化、都市間競争等で人口が減少していく中でも、本市の主要施策をPRし、より多くの訪問人口、定住人口につながるような施策を進めていくことが、今後の魅力向上に向けての方針だと考える。

■土橋市議 イメージというのはすごくふわふわしたもので、議員個々でも全く違う感覚だろう。いずれにしても長期的なスパンで考えなければならない戦略だと思う。

すべての行政行為が縦割りを無くして串で刺して、さいたま市が東京に引張られつつも独自色をだし、みんなが幸せになれるようなまちであればと思う。よろしく伺いたい。

Q 防災情報の提供方法 今後の研究・検討課題を提言

Q 土橋市議 防災対策事業の中に防災無線の保守点検や移設等として支出4,000万円となっているが、実際に移設等があったのか伺いたい。

A 防災課長 防災行政無線は中央区で1局、浦和区で2局の移設があった。

Q 土橋市議 防災無線をこれ以上増やせばよいとは思っていない。機密性の高いマンションや家が増え、防災無線が聞こえにくくなっているという問題もある。防災無線のあり方というものを新たな局面として考えていかなければならないと思う。どうしたら個々の家庭に情報が的確に流れるのか、別の観点からも検討を進めていただきたいと思っている。

次にハザードマップの作成事業について、毎年予算化されているが、具体的にどのような改善が行われるのか伺いたい。

A 防災課長 通年は増刷の予算を確保し執行させていただいている。ただ今年度は、国が荒川、入間川の水位情報を変え、浸水

想定地域を拡大するとか、最大規模の雨量を前提にしたものに切り替えている。国の指針が変わったため、今年度は新たな作りかえに取り組んでいる。

■土橋市議 以前質問させて頂いた。ハザードマップは作るだけでなく、有事の時にどう活用してもらうか、通常時にいかに目を通してもらうかという工夫が必要だと思う。なるべくコンパクトに見やすく、ワンストップで分かるようなものを研究していくとの答弁も頂いている。時間がかかるのは承知しているが、常に研究をして頂ければと思う。よろしくお願ひしたい。



Q コミュニティバス 区をまたぐ路線設定に前向き答弁

Q 土橋市議 昨年12月の一般質問で、生活の足としてのコミュニティバスについて、区をまたいだルートを検討してはどうかと質問をしたところ、前向きに検討するという答弁をいただいた。その後すぐ、地元桜区と中央区の自治会の方々による地域組織が設立された。それから数カ月が経過し、今のような進捗状況にあるのか伺いたい。

A 交通政策課長 議員ご指摘の通り、桜区と中央区をまたぐルートについて、地元の方から要望をいただいている。現在、地元の方とルートをはじめ、コミュニティバスなのか乗り合いタクシーなのかを含めて協議を進めている。

Q 土橋市議 もう少し具体的な進捗状況を教えていただきたい。

A 交通政策課長 地元の熱意もあり、これから実証運行など、具体的な予算の検討をしていきたいと考えている。

■土橋市議 新規のルートをつくるのもハードルが高く大変なところ、区をまたぐところでさらにハードルが高いということもある。しっかりと丁寧に、かつスピード感を持って進めていただきたい。よろしくお願ひしたい。



台風21号で道路冠水多発 水害対策の強化を改めて実感

10月22日から23日にかけての台風21号の影響で、市内で道路冠水や床上・床下浸水が発生しました。桜区でも通学路などの道路が冠水し、生活に支



障をきたす事態が見受けられました。

近年、集中豪雨による被害が増えています。今回の被害状況を踏まえ、区内の水害対策に力を入れて取り組まなければならないと痛感しています。



桜区内の道路冠水の様子(23日撮影)。右上の写真は、毎日多くの生徒が利用している、市立大久保中学校への通学路。

市総合防災訓練中止を受けて

9月2日に予定されていた「さいたま市総合防災訓練・防災フェア」が、台風の影響による悪天候を理由に中止になりました。同訓練は市内で行われる中で最も規模が大きく、かつ「第38回九都県市合同防災訓練」として、9都県市の連携・協力体制の確認・検証を行う重要な訓練でもありました。

当日は、会場となっていた荒川総合運動公園が雨でぬかるんでいましたので、一般市民を対象にした「防災フェア」の中止は致し方ないものと考えます。しかし、災害は悪天候など自然条件を選んではくれません。いついかなる事態にも対応できるための訓練として、規模を縮小するなり工夫をして実行することは考えられなかったのか、議案外質問(9月定例会)として防災訓練のあり方や考え方について質問しました。

是が非でも訓練を実施しろというつもりはないのですが、重要な事業に対しては一定の議論や熟慮も必要だと考えます。

さいたま市政への皆さまの声、ご意見・ご要望をお寄せください。

土橋勇司 政務活動事務所 〒338-0814 さいたま市桜区宿110-4

TEL : 048-854-7918 / FAX : 048-854-7786

E-mail : info@y-dobashi.sakura.ne.jp http://y-dobashi.jp/

～フェイスブックでも情報発信中!!～

